

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(3)-才	保健衛生の推進	施策	⑤ 薬物乱用防止対策の推進
			施策の小項目名	—
主な取組	麻薬等対策事業			
対応する主な課題	⑥本県の薬物事犯者数は、増加傾向にあり、過去5年間の平均で毎年約160名が検挙されている。覚せい剤事犯については、再犯率が高く、再乱用防止対策が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
薬物教育や地域に根ざした薬物乱用防止啓発活動を実施するとともに、薬物密売組織及び末端乱用者への対策を徹底し、薬物依存・中毒者の治療・社会復帰及び家族への支援の充実強化による再乱用防止対策の推進など関係機関が一体となった活動を実施する。		65回普及啓発活動回数				85回 →
実施主体	県、関係機関					
担当部課【連絡先】	保健医療部衛生薬務課		【098-866-2055】			
		薬物乱用防止活動				
		依存・再乱用防止対策				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
麻薬等対策事業費										
県単等	直接実施	4,163	2,501	3,200	774	3,906	4,217	県単等	OR3年度： 学校地域における薬物乱用防止講習会の開催(8回)	OR4年度： 学校地域における薬物乱用防止講習会の開催(27回)、地域等における薬物乱用防止啓発のための街頭キャンペーンの実施(12回)
薬物乱用防止特別啓発事業										
県単等	委託	2,994	2,935	2,800	2,365	2,874	4,674	県単等	OR3年度： 薬物乱用防止指導員等の研修会の開催(1回)、薬物乱用者等を対象とした薬物再乱用防止教室の開催(50回)	OR4年度： 薬物乱用防止指導員等の研修会の開催(1回)、薬物乱用者等を対象とした薬物再乱用防止教室の開催(50回)

様式1(主な取組)

活動指標名	普及啓発活動回数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	65回	53回	98回	47回	59回	85回	69.4%	6,780	やや遅れ	学校地域における薬物乱用防止講習会(8回)、薬物乱用防止指導員等の研修会(1回)、薬物乱用者を対象とした薬物再乱用防止教室(50回)を開催し、中・高校生や大学等の若年層及び地域住民への普及啓発を図った。
活動指標名	—				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										新型コロナウイルス感染症の影響により街頭キャンペーンが実施できなかったこと、教育機関からの講習会の依頼が減少したこと等により、活動回数は計画値85回に対し59回となったが、学校等関係機関へパンフレットやポスター等を配布することにより、中・高校生や大学等の若年層及び地域住民への普及啓発が図られた。
活動指標名	—				R3年度					また、薬物乱用防止指導員や学校関係者等に対し研修会を行い、講師養成等に努めた。
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用防止指導員の資質の向上を図るため、麻薬取締官などによる専門的な研修を行う。</li> <li>未成年者の大麻事犯の検挙者数が年々増加していることから、学校関係者等に対し、薬物乱用防止講習会を開催する。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>麻薬取締官などによる専門的な研修を行い、薬物乱用防止指導員の資質の向上を図ることが出来た。</li> <li>薬物乱用防止講習会を開催し、学校関係者等に対し薬物乱用防止に関する普及啓発が図られた。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

- ・若者の大麻事犯が年々増加している中、薬物乱用防止の広報啓発の一翼を担う薬物乱用防止指導員の知識が十分とは言えない。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、薬物乱用防止講習会の開催が減少している。

##### ○外部環境の変化

- ・本県における大麻事犯の検挙者数は年々増加傾向にあり、それに伴い、未成年者の検挙者数も増加している。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・薬物乱用防止指導員の資質の向上を図るため、麻薬取締官などによる専門的な研修を行う必要がある。
- ・未成年者の大麻事犯の検挙者数が年々増加していることから、同年代の視点に立った広報啓発活動を展開する必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・薬物乱用防止指導員の資質の向上を図るため、麻薬取締官などによる専門的な研修を行う。
- ・若者が主体となって薬物乱用防止を訴える広報啓発映像を作成し、同年代の視点に立った広報啓発活動を展開する。